

## 燃料費調整単価の算出方法について

以下は、2022年10月分の東京電力エリアでの算出方法です。

他のエリアも計算方法は同じですが、使用する係数や基準燃料価格が異なります。

### ①「平均燃料価格」を算出する

【方法】

- ・財務省が発表する貿易統計の輸入品の数量および価額の値にもとづき、次の算式によって原油換算値1キロリットル当たりの平均燃料価格を算定。

$$\text{平均燃料価格} = A \times \alpha + B \times \beta + C \times \gamma$$

A = 各平均燃料価格算定期間における1キロリットル当たりの平均原油価格

B = 各平均燃料価格算定期間における1トン当たりの平均液化天然ガス価格

C = 各平均燃料価格算定期間における1トン当たりの平均石炭価格

$$\alpha = 0.1970 \quad \beta = 0.4435 \quad \gamma = 0.2512$$

※平均燃料価格は、100円単位とし、100円未満の端数は、10円の位で四捨五入。

※各平均燃料価格算定期間における1キロリットル当たりの平均原油価格、1トン当たりの平均液化天然ガス価格および1トン当たりの平均石炭価格の単位は1円とし、その端数は小数点以下第1位で四捨五入。

【計算】

$$\begin{aligned} \text{平均燃料価格} &= 94,284 \text{ 円/kl} \times 0.1970 + 110,677 \text{ 円/kl} \times 0.4435 + 45,073 \text{ 円/kl} \times 0.2512 \\ &= \underline{79,000 \text{ 円/kl}} \end{aligned}$$

### ②プラス調整かマイナス調整かを確認する

【方法】

- ・平均燃料価格が、基準燃料価格の44,200円を下回る場合はマイナス調整(減額)、44,200円を上回る場合はプラス調整(増額)の算式を使用。

【確認】

- ・平均燃料価格が、44,200円を上回るため、プラス調整(増額)の算式を使用。

### ③「燃料費調整単価」を算出する

【方法】

- ・以下の算式を使用して、燃調費調整単価を算出する。

$$\text{燃料費調整単価} = (\text{平均燃料価格} - 44,200 \text{ 円}) \times (\text{基準単価}) / 1,000$$

- ・基準単価は、1キロワット時につき0.232円で、平均燃料価格が1,000円変動した場合の値。

【計算 A(調整の上限がない場合)】

$$\begin{aligned} \text{燃料費調整単価} &= (79,000 \text{ 円/kl} - 44,200 \text{ 円}) \times (0.232 \text{ 円}) / 1,000 \\ &= \underline{8.07 \text{ 円/kWh}} \end{aligned}$$

【計算 B(調整の上限がある場合)】

- ・平均燃料価格が上限の66,300円を超える場合は、66,300円で固定。

$$\begin{aligned} \text{燃料費調整単価} &= (66,300 \text{ 円/kl} - 44,200 \text{ 円}) \times (0.232 \text{ 円}) / 1,000 \\ &= \underline{5.13 \text{ 円/kWh}} \end{aligned}$$

## 参考：「燃料費調整額」について

### 【方法】

お客様の燃調費調整額 = 燃料費調整単価(/kWh) × 利用量(kWh)

<J:COM 電力の料金の構成>

